

昭和五十六年末の同志社大学における説話文学会例会が、一つの契機となつて、新しく説話・伝承学会が発会することとなった。実は、同志社における例会の開催も、小生の仲立ちすることであつたゆえに、ゆきがかり上、この学会の結成にも、音頭をとるはめに立たされ
てしまつた。

は、国文学の主流を任ずる彼等にとつて、それは当然なかもしれないが、久しく文化を先取りする気運にあつた京都・関西を思えば、その保守的姿勢は、文化の地盤沈下につながるものと思われ
る。

は、所詮、互いの視界を刺戟するお祭りなのかも知れない。望まれるのは、そのなから地道な共同研究が生まれ、個別の比較研究がおこることである。

この三月中旬、松前健教授ともども、国立民俗博物館主催の国際シンポジウム『日本民族文化の源流と比較研究』へ民間説話研究会に参加した。僅か四日間の討論ではあつたが、その比較研究の容易ならぬことと、視界の拡大の要請されていくことが実感させられた。また同下旬には、韓国・仁荷大学の招きで、同人文科学研究所主催の国際シンポジウムに加わつたが、そこでの実感もほとんど同じであつた。学会やシンポジウムは、普遍的研究成果に道を開くに過ぎまい。今、小生らに要請されることは、学際化・国際化のうねりを受けとめながら、実のりある研究体制を整えることのように思われる。

国際化・学際化のなかで

福田 晃

東京方面の先達や仲間と協力を依頼すると、多くが「関西・京都中心の全国的学会があるのはよい」と賛じてくれた。が、地元の京都・関西勢は、そう単純には動いてはくれない。特に頑迷な人々は、有名国立大学の国文学者たちで、「これ以上、新しい学会はいらぬ」と冷やかである。あるいは学会

が、学際的立場に身を寄せて、説話・伝承の総合的比較研究を試みようとするものである。勿論、学際的研究や総合的研究は、言うはやさしく、その成果は容易に得られるものではない。また学会があれば、その研究がかなえられるというものでもない。あるいは学会

第二十八回大会

日時 昭和五十九年六月十日(日)

自午前十時 至五時二十分

場所 立命館大学 末川記念会館

一 研究発表

(午前の部) 司会 元田亨市・友田悦生

百合若大臣伝承論 大石康夫

矢数俳諧の文芸性 稲岡麻理

『西鶴俳諧大句数』を中心に『雪国』論 辻本千鶴

(午後の部) 司会 坪内稔典・増田茂

「貴船の本地」に関する一考察 三浦俊介

『記紀』重出歌謡の問題 宮岡 薫

金子春夢の小説 芦谷信和

二 講演

食物と言葉 前田富祺(大阪大学)

三 総会(午後四時三十分～五時二十分)

会長松前健教授の挨拶の後、議長(国末

泰平・山下伸仁)を選出し議事に入った。まず昭和五十八年度の活動報告、会計決算報告(別項Ⅰ)、同監査報告があつて、それぞれ承認された。ついで昭和五十九年度の活動報告(機関誌『論究日本文学』刊行・日本文学談話会・国語教育ゼミナール・文学旅行・学生会)と予算案(別項Ⅱ)についての説明があり、審議を経た後、原案通り承認された。また、今大会から会場を有料の末川会館に移したのに伴つて、次大会より大会参加費を徴収する議案につき、審議の上承認された。参加費の金額は評議員会に一任された。最後に役員の変更(別項Ⅲ)が行われ、新会長福田晃教授の挨拶で総会を閉じた。当日大会参加者六十名。大会終了後に、会場を同会館内「カラム」に移し、恒例の懇親会が、水田教授の学位取得のお祝いのお会をかねて催された。

会長の挨拶の後、議長(国末

雑収入	二四、九七八円
合 計	一、一九二、六八五円

雑収入	一、〇〇〇円
補助金	三〇、〇〇〇円
会費	三四五、〇〇〇円
前年度繰越金	六五〇、四二三元
収入の部	一、〇〇〇円

雑支出	一三、三五一円
事務消耗費	二、一一一元
通信費	一一〇、七九〇円
事業費	四一六、〇〇〇円
支出の部	六一〇、一五一元

雑収入	一、〇〇〇円
補助金	三〇、〇〇〇円
会費	三四五、〇〇〇円
前年度繰越金	六五〇、四二三元
収入の部	一、〇〇〇円

雑収入	一、〇〇〇円
補助金	三〇、〇〇〇円
会費	三四五、〇〇〇円
前年度繰越金	六五〇、四二三元
収入の部	一、〇〇〇円

雑収入	一、〇〇〇円
補助金	三〇、〇〇〇円
会費	三四五、〇〇〇円
前年度繰越金	六五〇、四二三元
収入の部	一、〇〇〇円

雑収入	一、〇〇〇円
補助金	三〇、〇〇〇円
会費	三四五、〇〇〇円
前年度繰越金	六五〇、四二三元
収入の部	一、〇〇〇円

雑収入	一、〇〇〇円
補助金	三〇、〇〇〇円
会費	三四五、〇〇〇円
前年度繰越金	六五〇、四二三元
収入の部	一、〇〇〇円

雑収入	一、〇〇〇円
補助金	三〇、〇〇〇円
会費	三四五、〇〇〇円
前年度繰越金	六五〇、四二三元
収入の部	一、〇〇〇円

雑収入	一、〇〇〇円
補助金	三〇、〇〇〇円
会費	三四五、〇〇〇円
前年度繰越金	六五〇、四二三元
収入の部	一、〇〇〇円